

2 JAPAN TRAVEL AWARDS™ 25

フィードバックレポート

# 2025 JAPAN TRAVEL AWARDS™

# 総合コメント

4年目の開催となった今年は北は北海道、南は沖縄まで、全国43都道府県から史上最多となる196件の応募がありました。より多くの方々が楽しめる観光づくりを意識したコンテンツが増え、日本の観光が更に魅力的になっていることを嬉しく思います。

「インクルーシブな観光」というのは、何も特別なことではありません。多言語での情報提供、障がいを抱える方やLGBTQ+の方、子ども連れ家族、食物アレルギーを持つ方など多様な方々への思いやりを形にしたものです。また、環境や地域、そこで働く方々に利益をもたらす持続可能な観光も重要な要素です。

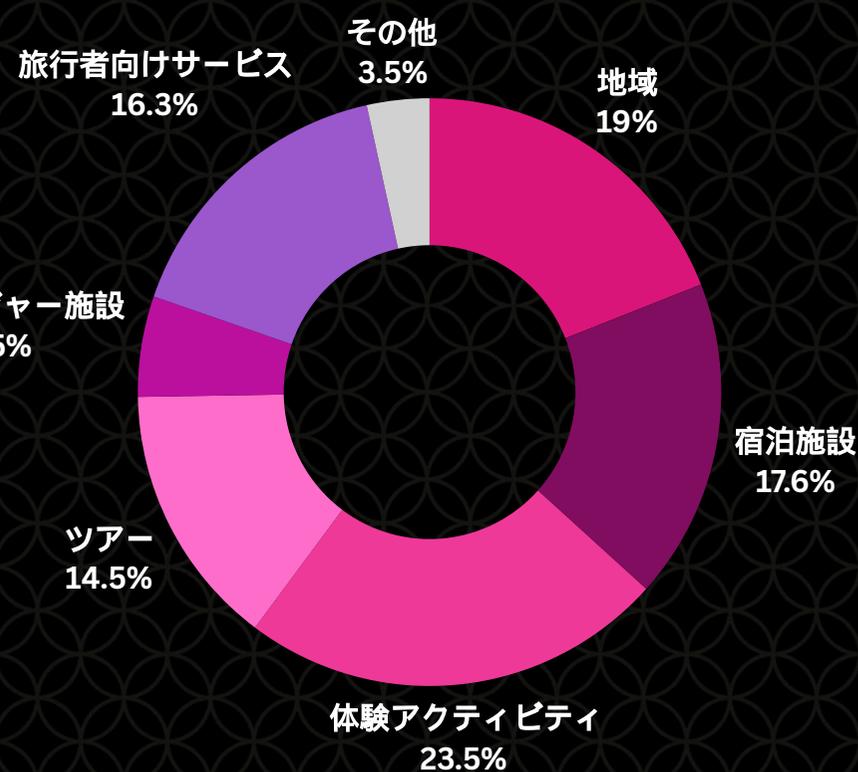
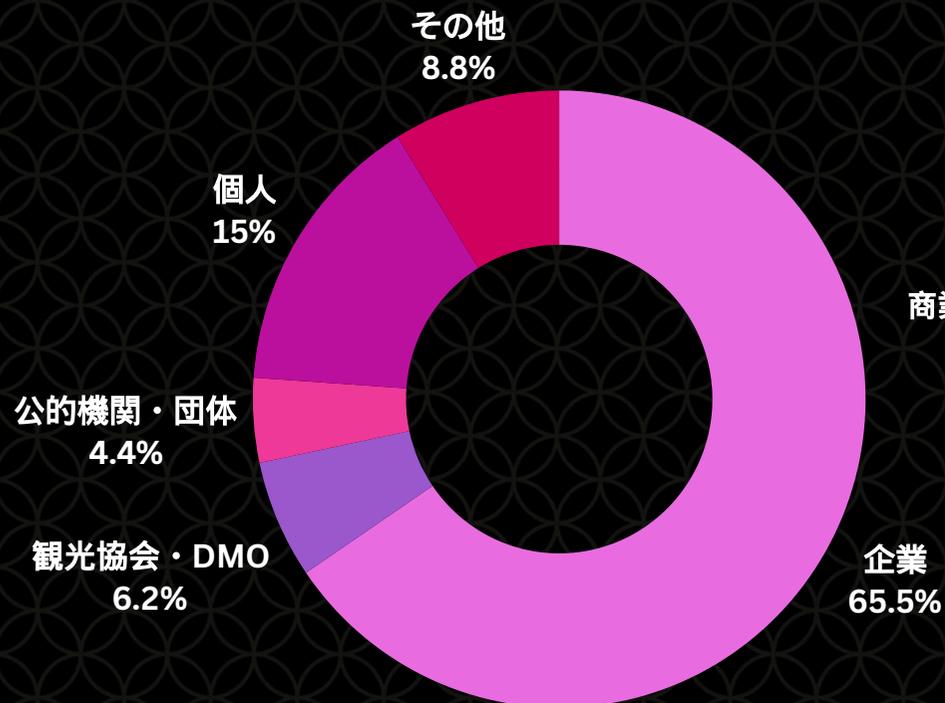
このフィードバックレポートでは、以下の内容について紹介しています。

- どういう視点で審査を行ったか
- どうすれば改善できるのか
- 審査の中で発見した素晴らしい事例など

さらに良い観光、そして良い社会をつくるヒントに、ご活用していただき、来年、さらに多くの「感動地」との出会いを楽しみにしています。

## 応募者区分

## エントリー区分



# 2025

JAPAN TRAVEL AWARDS™

# 審査のポイント



**観光の魅力**  
旅行者が楽しめるか



**DE&I の取組み**  
旅行者や働く人が、  
自分らしくいられるか



**サステナビリティ**  
経済・社会公平性・環境など  
持続可能な仕組みか



**インバウンド**  
海外からの旅行者にも  
選ばれるか

多様な価値観が浸透してきた昨今、従来の観光における優れたサービスだけでは、旅行者の本当に求める観光体験にはつながらず、観光事業者はアップデートを迫られています。書類審査では、以下の3つの点を重要視していました。

## 1

### さらなる付加価値を提供しているか

ツアーや体験アクティビティ、宿泊施設、食事など主要コンテンツの質が高いことは当然です。その場所で体験するからこそその価値や、旅行者自身が何らかの形で地域社会や地球へ貢献できること、新たな学びや発見、挑戦の機会などが求められています。そしてその観光体験が、高齢者、小さな子ども連れ、障がい当事者やその家族や友人、LGBTQ+コミュニティなど、多様な旅行者に対して提供するための工夫ができているか。それこそが、これからの観光が目指すべき付加価値だと私たちは考えています。

## 2

### 価値の可視化ができているか

「問い合わせがあれば柔軟に対応します」という回答は、対応しない、もしくは対応する気がないと同義だとお考えください。実際は素晴らしい対応をしていたとしても、それが見えなければ意味がありません。多様なニーズをもつ旅行者にどのような情報を提示すべきか？ 想像力をはたらかせて可視化ができている地域や事業者は信頼され、結果、差別化となって訪問や予約へつながります。

## 3

### 世界に気づいてもらう努力ができているか

「言葉ができないから外国人対応はできない」— そんな時代は終わりました。AIの台頭や機械翻訳の精度向上により言語の壁は低くなっています。何より、言葉の通じないコミュニケーションも旅の醍醐味の一つです。外国人向けに新しい特別なことは必要ありません。まずはウェブサイトの英語ページをGoogle翻訳やDeepLを活用して作ってみましょう。外国人が訪れたことによって、「逆輸入の観光コンテンツ」として国内での認知度も急増する可能性も秘めていることは、忘れてはいけません。



- 入口の段差やスロープの有無、多目的トイレの様子など、旅行者が事前に確認して判断できるよう、ウェブサイトやSNSに写真付きでアクセシビリティ情報を記載する  
※対応不可の場合も、その理由とともに対応が難しいことを伝えましょう。
- 「バリアフリー情報」の特設ページやコーナーをウェブサイト内に設ける。難しい場合は、FAQにアクセシビリティのセクションを設け、想定される質問に答えておく
- 体験アクティビティやツアーでバリアフリー対応が可能なのであれば、車椅子アイコンなどを表示し、旅行者に体験できることを伝える
- 施設に段差がある場合、折りたたみ式の簡易スロープ（電車の乗降時に駅員が使用しているもの）を購入し、周知する ※オンラインで2万円ほどで購入できます。
- 視覚や聴覚に障害を持つ人へのサポートも導入し、明記する  
※過去に受け入れをした場合、その旨を明記したり写真があれば安心してもらえます。
- 施設の地図に多目的トイレの位置や車いすで通れるルートの記載を追加する
- 駅からの送迎サービス等がある場合、車椅子が乗れるかどうかの明記もしくは、ユニバーサルタクシーなどの手配が可能であることをHPで紹介する
- FAQ欄に「障がいがあっても参加できますか？」などの質問を加え、細かく回答する

以下ご参照：

\*観光庁：宿泊施設におけるバリアフリー情報発信のためのマニュアル (<https://bit.ly/456P5ta>)

\*北欧の大手ホテルチェーン「Scandic Hotels」のチェックリスト (<https://bit.ly/43XLP7g>)

# 2025 JAPAN TRAVEL AWARDS™

## なにわー水

島根県松江市

[www.naniwa-i.com](http://www.naniwa-i.com)

1918年創業、島根県松江市の宍道湖畔にある老舗旅館ながら、パブリックスペースや客室、温浴施設など館内の随所にバリアフリー対応を施している。ウェブサイトのトップナビゲーションにも「バリアフリー」と大きく記載があり、誰にも優しい旅館であることが一目でわかる可視化や質の高い情報発信を実施。また、英語のページにおいても日本語同様の情報発信ができています。



## ゼログラヴィティ

鹿児島県瀬戸内町

<https://zerogravity.jp>

「ゼログラヴィティ（無重力）」という名前の通り、障害の有無にかかわらず、誰もが大切な人と一緒にマリンスポーツを楽しめる。宿泊施設、ボート、プールも全てバリアフリー。誰もが体験を楽しめる工夫や努力が当アワードの価値観と共鳴し、審査員の心に最も深く響いた。ジャパントラベルアワード2024のグランプリ受賞。



良い事例



- HPやSNSなどの宣伝動画や写真に同性カップルやさまざまな形の家族を登場させる
- HPやSNSなどの表現に配慮する ※"夫婦で過ごす"→"大切な人と過ごす"など、表現を変えるだけで当事者やLGBTQ+のアイが受ける印象は大きく変わります。
- 観光客の個人情報を収集する際は、性別欄を任意の回答にし、男性・女性以外の選択肢を設ける ※意思表示を事前にすることで、お互い心の準備ができます。
- 旅行者の性別をなるべく想定せずに、「Mr. (ミスター)」や「Mrs. (ミセス)」などの敬称を避ける
- ジェンダーレストイレ（だれでもトイレ）があることを周知する
- 理解を深めるための社内研修を行う ※行っていることはウェブサイトなどでしっかりPRしましょう！
- LGBTQ+の方々も安心して訪問できるように、ウェブサイトに象徴的なレインボーフラッグを掲載したり、Google Businessで「LGBTQフレンドリー」「トランスジェンダー対応」を表示する設定をする
- ウェブサイト等に「多様性を大切にしています」など多様性に関する考えや独自の方針を記載する
- ロビーまたはチェックインデスクに小さなレインボーフラッグを置いたりする ※旅行者は自分が尊重され、安全に過ごせることがわかります。(SNSで拡散してもらえらるチャンスにもなります！)
- 多様な従業員を雇用する（性的指向、人種、宗教、年齢、能力、言語など）

## ホテルパームロイヤルNAHA国際通り

沖縄県那覇市

<https://palmroyal.co.jp>

「ダイバーシティアイランド沖縄」の実現を企業理念に掲げ、LGBTQ+、障がい者、心のバリアフリー対応を推進。ウェブサイトやホテル内の装飾など、ホテル全体としてダイバーシティを啓蒙するための可視化がされている。フロントには、宿泊客の目につく位置にレインボーフラッグがあるほか、HP上でもLGBTQ+フレンドリーホテルを明記し、独自のページで情報発信を行なっている。



## lyf Tenjin Fukuoka

福岡県福岡市

[www.discoverasr.com/ja/lyf/japan/lyf-tenjin-fukuoka](http://www.discoverasr.com/ja/lyf/japan/lyf-tenjin-fukuoka)

国籍、性別、年齢等に囚われず、ダイバーシティを尊重する人が自由に交流し、イノベーションが生まれる空間を目指す宿泊施設。ユニバーサルルーム、LGBTQ+コミュニティ向けの独自プランや、ダイバーシティに絡めたイベントを年間を通して数多く開催。それらの活動をHPやSNS上で日本語と英語で発信されている。





- 小さな子ども連れにも対応した体験やツアーを提供し、ウェブサイトなどでわかりやすく明記する
- 乳幼児連れ利用者に配慮した設備（ベビーベッド、ベビーチェア、授乳スペース等）を取り入れる
- SNSやウェブサイトの子連れや異世代、ペットと一緒にくつろぐ写真などを載せる
- 宿泊先及び複数のツアーを提供の場合は、子連れ向けのアクティビティ可否の表示する
- サイクリングなどのツアーの場合は、チャイルドシート付き自転車やトレーラーなどのオプションを持ち、ウェブサイトなどでも掲載する
- レストランや食事が含まれるツアーの場合は、お子様メニューや容器などを用意する
- 宿泊施設やツアーの待機スペースなどで、子どもが遊べるスペースを設けたり、子どもが遊べる工夫をする
- 売店がある場合は、子ども向けのもの（おむつ、熱冷ましシートなど緊急時でも使えるもの）を用意する
- 小さな子ども連れに関する情報を、ウェブサイト上もしくはFAQに掲載する
- ベビーカー、抱っこひもなどのレンタルをし、ウェブサイトやSNSで発信する
- ペット可否を明確にする ※「ペット」が犬以外でも何がOKか明確に記載
- ペット可であれば、SNSやウェブサイトですべてペット連れの画像を掲載する

## 森の国 Valley 愛媛県松野町

<https://morino-kuni.com/>

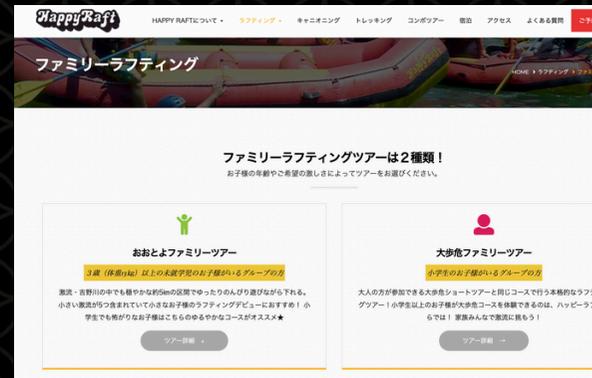
「自然と共に生きる・自然から学ぶ・自然を守る」の観点から、宿泊体験、野外教育キャンプや様々なアクティビティと挑戦を通じて、子供から大人まで、自然の楽しさと食べ物や命の大切さを学べる場を提供。子供連れファミリーにも優しく快適な宿泊施設を有する「森の国 Valley」。日々の暮らしや自然との共生について考えるきっかけを、工夫を凝らしながら大人にも子供にも提供している。



## HAPPY RAFT

高知県大豊町  
[www.happyraft.com](http://www.happyraft.com)

2年連続で当アワード「ファミリー部門」を受賞したハッピーラフトでは、世界トップレベルとも言われ上級者を魅了する吉野川で、3歳以上から参加できるファミリーラフティングツアーを提供。子ども向けの環境保全ワークショップの実施や、ツアーに参加できない小さな子どもが遊べる待機スペースなど、家族と一緒に素敵な思い出を作れる工夫がたくさん。もちろん、HPやSNS上でも「可視化」されている。



# 2 JAPAN TRAVEL AWARDS™ 25



- 3E (= Environment/環境、Economy/経済、Equity/社会の公平性) を促す活動やアクティビティの提供 ※サステナビリティやSDGs = 環境保護 ではありません。
- 3R (Reduce/削減、Recycle/リサイクル、Reuse/再利用) の実施 (食品ロスやプラスチック使用量の削減、ごみの分別など)
- 観光客が参加することで地域や環境に貢献できるようなサステナブルツアーやアクティビティを提供
- 地域性のあるストーリーを、わかりやすく、共感しやすく伝える
- ユニバーサルデザイン向上の取組を行う
- ダイバーシティや持続可能性に配慮した運営や経営に関する方針をウェブサイトやSNSで示す
- 理解・共感・参加しやすい「サステナブルファクター」が取り入れられたコンセプトを提供
- 徒歩や自転車など環境に配慮した移動ができるサービス・ツアーの提供
- 地域の歴史・文化・価値観の理解を促進するツアーや体験の提供
- 地域の企業と連携し、地域のことを最大限に自社プロダクトに取り組む
- プラントベース食事の提供

## 付加価値 II サステナビリティ

## 田歌舎

京都府南丹市美山町  
<https://tautasya.jp>

日本の原風景の色濃く残る京都美山にて、自給自足を目指す集団のライフスタイルや自然や動物との共存について、真正面から伝える体験。通年必要な米肉野菜の9割以上を自給し、施設の建物は全てセルフビルド。冬季の薪も自給し、水は100%湧き水の自家水道。表面的でない持続可能性について深く学び、考えるきっかけを旅行者へ与えていることが評価された。



## 沖縄ダイビングサービス Lagoon

沖縄県恩納村  
<https://www.lagoon-diving.com/>

沖縄恩納村にあるダイビングショップ。ダイビングを楽しみながら、珊瑚の保護活動に参加できる。珊瑚について学んだ後は、自分で作ったサンゴ苗を海に植え付け。サステナブルな活動に興味があってもなくても楽しめて環境保護に貢献できる。レスポンスブル・ツーリズムの教科書のような魅力的な体験が評価された。





- 自社ウェブサイトやSNSで、英語もしくはその他言語で情報発信を行う  
※求められるのは「完璧な言語対応」ではなく「情報が事前に得られるかどうか」
- 日本語と英語サイトの情報量の乖離をなるべく減らす  
※アクセス・バリアフリー情報などの基本情報は、相違がないように努めましょう。
- 外国人にもコンセプトや背景を理解してもらえらるための努力  
※現地で言語を話す人や通訳がない場合は、配布用の簡単な説明資料があれば安心です。
- 外国人旅行者がローカルと繋がれる体験を提供する
- 施設内に外国語のパンフレットや、案内表示、サイネージを設置する
- 多様な宗教や生活習慣、食事に柔軟に対応できるための研修を実施する
- 公衆トイレの洋式化やキャッシュレス対応などの受け入れ態勢の整備
- 海外旅行客が閲覧するメディアやOTAなどに露出する
- 子ども相手にするような説明の仕方や注意をしない
- 外国人を積極的に採用し、共生しながらお互いが学べる環境を創る

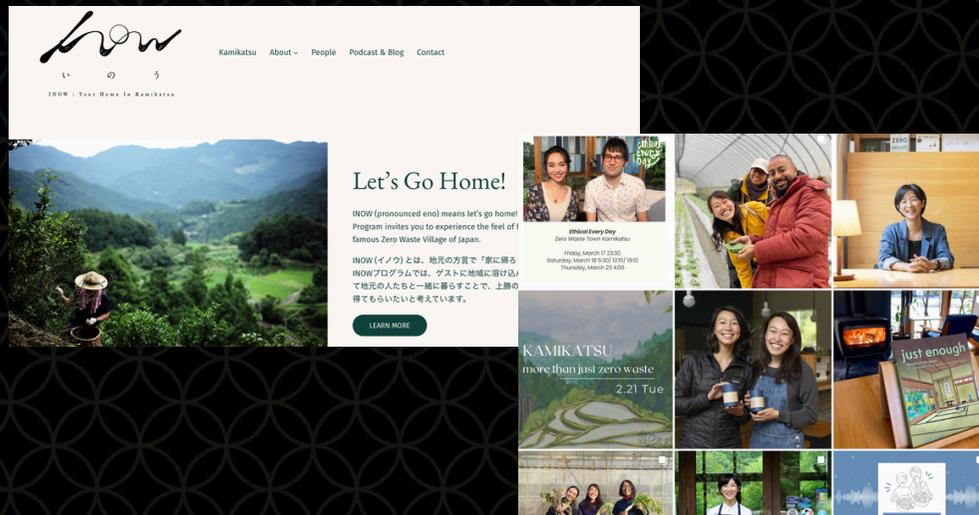
# 2 JAPAN TRAVEL AWARDS™ 25

## INOW

徳島県上勝町

<https://inowkamikatsu.com>

日本で初めて廃棄物ゼロ宣言をした村・徳島県上勝町で、長期にわたって地元の人たちと一緒に暮らすことで持続可能性について考えるきっかけを提供するホームステイプログラム。地域住民と共に、持続可能な観光プログラムをつくり、海外へ発信している。HPは完全バイリンガルで、全ての情報が日本語と英語で掲載。現地には言語対応が可能なスタッフが常駐し、SNSも英語での発信を常に行なっている。

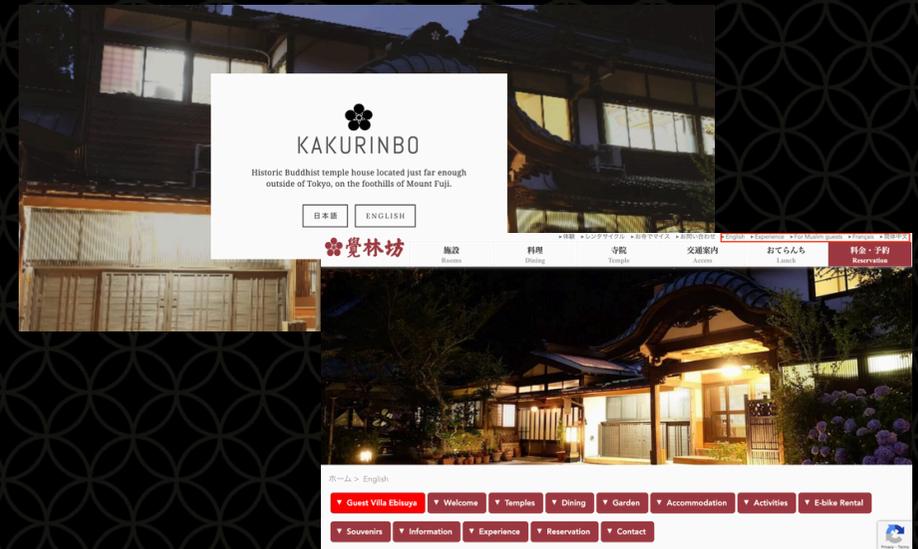


## 宿坊覚林坊

山梨県身延町

<https://kakurinbo.jp>

750年続く仏教の町・山梨県身延町にある宿坊体験。宿泊者は、朝のお勤めなど宿坊ならではの体験や、精進料理・和紙・硯・印鑑・表具・お茶などの様々な体験が可能。ムスリムやヴィーガン・ベジタリアンの旅行者向けへ日本語・英語・フランス語・中国語の独立ページを持つなど、より多くの人に向けた情報発信も行なっている。



良い事例



## エースホテル京都

エースホテル京都

📍 京都府京都市

米国シアトル生まれのデザインホテル。アートや音楽を軸に、クリエイティブな空間で、LGBTQ+や持続可能な社会についての理解を深めるイベントなど数多く実施している。



## TEMPLESTAY ZENSŌ

TEMPLESTAY ZENSŌ

📍 群馬県千代田町

群馬県千代田町で約700年つづくお寺・黄檗宗真福山宝林寺の離れを改装した一棟貸しの寺泊であり、千代田町初かつ唯一の宿泊施設。現代人が余白を楽しむための令和版宿坊として、宿泊者は地元の食材を楽しみながらBBQやピザ窯体験もできる。



## AiAii

AiAii

📍 兵庫県洲本市

淡路島で家族で運営している藍染め工房。地域独特の伝統的な方法で藍を育て、発酵。古くなったお気に入りの洋服などを染め直すアップサイクルも可能で、観光客や地域住民にも人気。体験には小さな子どもや車いすユーザーも参加可能。



## バリアフリーアウトドアサポート wildwater

wildwater

📍 滋賀県大津市

アウトドアに興味のある全ての人の「やってみたい!」をサポートするため、元消防士が立ち上げた会社。琵琶湖でSUPやカヤック、釣りなどのマリナクティビティを提供し、車いすユーザーでも楽しめるように様々な工夫している。



## 武家屋敷とツルのまち出水

一般社団法人出水市観光特産品協会

📍 鹿児島県出水市

日の出と共に一斉に飛立つ万羽ツルの美しい姿を間近で見学するツアーや、日本最大級の武家屋敷群を活用し、「子ども甲冑体験」など多様な体験を提供。地域内にある高齢者共同住宅は宿泊可能で、住民との触れ合いも楽しめる。



## 酒蔵ホテル® KURABITO STAY

株式会社KURABITO STAY

📍 長野県佐久市

長野県佐久市にある創業300余年の酒蔵に泊まり、酒造り学ぶバイリンガルな「蔵人体験」。日本酒造りの魅力を国内外に発信し、地域へ人々を呼び込むことで、観光による持続可能なまちづくりに挑戦している。

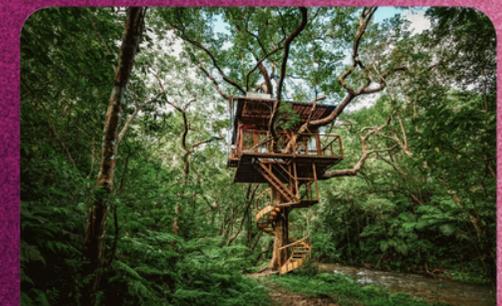


## 支笏湖ネイチャークルージング

支笏ガイドハウスかあ

📍 北海道千歳市

2011年から、北海道千歳市にある支笏湖にてアクティビティプログラムを実施。身体の不自由な方や、重い病気を抱った子どもとその家族などでも、誰もがカヌーやキャンプを楽しめるように、様々な機関と連携しプログラムを行っている。



## ツリーフルツリーハウス サステイナブルリゾート

株式会社ツリーフル

📍 沖縄県名護市

沖縄県名護市「やんばるの森」に位置する、本物のツリーハウスに泊まれるリゾート。自然との共存をコンセプトに、建築、再生可能エネルギーの使用、化石燃料不使用など、サステナビリティを多方面にわたり実践している。



## 蔵宿うずまき

蔵宿うずまき

📍 鳥根県奥出雲町

奥出雲に佇む築90年の蔵を改修した1日組限定の宿泊施設。五右衛門風呂沸かし体験やかまど炊飯体験、放し飼いの鳥骨鶏とのふれあい、季節によっては田植えや稲刈りも体験可能で、五感を通して風土を体感できる。



## Ume,yamazoe

株式会社梅守本店

📍 奈良県山添村

里山に囲まれた古民家を改修した3室限定の宿。「人に優しい場所」をビジョンに掲げた「ちょっと不自由なホテル」。提供する食事や体験は、障がいや病氣、宗教や性別に囚われることなく、いろんな人が楽しめる場所を創るべく工夫している。



## HAKKO HOUSE NAGAOKA

SUZU GROUP

📍 新潟県長岡市

雪国・新潟県の暮らしの中で育まれてきた保存食と発酵文を活かし、ジオガストロノミーに特化した食体験型の一棟貸切宿。近隣の酒蔵、味噌蔵、醤油蔵、農家などの連携した多様な体験を提供している。



## よんな〜大宜味

NPO法人おおきみまるとツーリズム協会

📍 沖縄県大宜味村

沖縄県北部にある、世界五大長寿地域にも選ばれた世界屈指の長寿の村。長寿の秘訣とされる「生涯現役」「健康的な食生活」「人との繋がり」を体験できる農家民泊や、大自然に触れながら豊かな精神性を育めるアクティビティを提供。



## 伊賀の里モクモク手づくりファーム

株式会社伊賀の里モクモク手づくりファーム

📍 三重県伊賀市

生産・加工・販売をすべて一貫して行う「第六次産業」を日本でいち早く行った農業公園。2001年の「できる限りやさしさ宣言」以来、環境だけでなく、子ども、障がい者を持つ人、LGBTQ+に優しい施設づくりに努めている。



## 静楓亭

サンフロンティアホテルマネジメント株式会社

📍 福島県猪苗代町

掛け流しの温泉露天風呂がいった客室で、郷土料理を楽しめる1994年の老舗旅館。外国人観光客、ちいさなお子さま連れの家族、また体に障がいを持つ人への配慮など、小さな宿だからこそできる細かなケアを心がけている。



## SAMURAI TRIP

株式会社パークフォアース

📍 東京都大田区

訪日外国人向けに、剣道を通して日本の「武道文化」を伝える体験。外国人を誘客することで、剣道家、道場、用具店などを持続可能にするための体制を構築。東京をはじめ、全国の主要都市で体験を提供している。



## 箱根本箱

株式会社自遊人

📍 神奈川県箱根町

1万2000冊の本に囲まれたスタイを楽しめるブックホテル。「衣・食・住・遊・休・知」の6ジャンルを中心に選書され、購入することも可能。また本だけでなく、外国人客に日本文化を知ってもらえる食事や、生産者の取り組みを伝えるキッチンツアーなどを提供している。

# 最後に

ファイナリストに選ばれた人も、選ばれなかった人も、本レポートに記載のあった内容で、良いなと思ったこと、すぐにできそうなこと、真似できそうなことがもしあればぜひ取り入れてみてください。

観光に携わる皆様の「変化」が、社会をポジティブに「変化」させると私たちは信じています。

観光をもっと良く。そうすれば、社会も良くなる。

ぜひ来年、アップデートされた感動地との出会いを審査員一同楽しみにしております。

The logo for the Japan Travel Awards is centered on a dark background with a repeating pattern of overlapping circles. The text 'JAPAN TRAVEL' is in white, and 'AWARDS' is in a gradient of pink and red. A large, thin circle in the same gradient surrounds the text.

JAPAN  
TRAVEL  
AWARDS™